フランスの科学探査船

タラ号が教えてくれたこと

5月5日（土・祝）から8日（火）にかけて、世界中で海洋調査を行っているフランスの科学探査船・タラ号が仁尾マリーナに来航しました。タラ号が教えてくれた海の現状の話を受けて、私たちが自然を守るためにできることを考えてみましょう。

乗船体験では、ヨアン・ミュシュリ船長（左）たちから、気候や環境の変動が海に与える影響について話を聞きました

世界の海で問題になっているマイクロプラスチック

マイクロプラスチックとは、直径5ミリ以下の微細なプラスチックごみのこと。タラ号は世界中の海水の調査を通して、マイクロプラスチックによる深刻な汚染の問題を目の当たりにしました。

今回、タラ号が三豊市へ来航した際には、総合案内人として関わってくれたアーティストの日比野克彦さんがマイクロプラスチックの説明をしてくれました。

▲日比野克彦さんによる説明

「プラスチックごみは、どんなに細かくなっても無くなりはしません。そして、魚が食べることもあります。その魚を食べるのは私たち人間です。ビニールやペットボトルなどのごみは、だれかが海に捨てたもの。自分たちの生活と海がつながっていることを忘れないでください」

また、ヨアン・ミュシュリ船長をはじめ、乗組員の皆さんからは、海の環境を守る必要性が強く訴えかけられました。

「まずは、私たちがプラスチックを使わない努力をしなければなりません。地球のためにどうしたらいいのか、真剣に考えていきましょう」

サンゴ礁の半分が消滅する未来

海洋のわずか0・2%を占めるに過ぎないサンゴ礁には、海洋生物の30%が生息しています。まさに生命の宝庫と言え、人間もサンゴ礁から恩恵を受けている生物の一部です。

しかし、気候変動や二酸化炭素排出などによって、サンゴ礁は消滅の危機に直面しています。マイクロプラスチックによる海の汚染も原因の一つ。このままでは、40年後に残るサンゴ礁は半分以下に減少すると予想されています。

身近な海にもごみがある現実 今、私たちにできること

タラ号の乗船体験に合わせて、仁尾の海岸ではごみ拾いが実施されました。集まったごみは、1日でなんと300キロ！環境問題は、遠い海の話ではありません。私たちが住む身近な場所にも存在しています。だからこそ、できることを一つずつ行動に移すことが大切です。

▲仁尾の海岸に漂着したごみ

タラ号に乗って学んだ、海が抱える環境問題

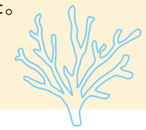
タラ号来航中には、環境学習の一環として、市内８校の児童が乗船体験に参加しました。
子どもたちの視点から感じたこと、これから実践したいことを書いた感想文を紹介します。

仁尾小4年　山地　央菜（おうか）さん

タラ号は、世界の海を回って海の健康状態を調べているそうです。今、世界の海はだんだん不健康になっているそうです。このままでは、40年後にはサンゴが半分になってしまうと聞いてびっくりしました。

私たちは、仁尾の海で回収したたくさんのごみも見ました。ほとんどがペットボトルなどのプラスチックでした。それが海に出て目に見えないぐらい小さなマイクロプラスチックになると、プランクトンと間違えて魚が食べてしまうのだそうです。そして、その魚を最後に食べるのは私たちです。怖いなあと思いました。

プラスチックは身の回りにたくさんあって、とても便利だけど、自然を不健康にする原因になっています。ペットボトルでなく水道の水を飲む、レジ袋をもらわないなどのことから始めて、海の環境を少しでも守れるように努力したいと思いました。



山本小5年　篠原　瑠子（るこ）さん

タラ号の皆さん、今回は私たちにタラ号のことをいろいろと教えていただき、ありがとうございました。

私は「タラ号」と聞いたとき、どこの海の何を調べるのか、気になっていましたが、タラ号は世界中の海が健康かどうかを調べる船だと分かりました。

私はタラ号に乗ったとき、今まで乗った船の中で一番大きくてびっくりしました。重さは１２０トンもあると聞き、とても重たいなと思いました。

日比野克彦さんの話によると、私たちが捨てているごみは、海の中では溶けずにマイクロプラスチックになり、サンゴにストレスを与えて死なせてしまうそうです。酸素を作っているサンゴが死んでしまい、大変なことになるなと思いました。だから、これからは買い物の時は、エコバッグを使ったり、なるべくペットボトルの飲み物は飲まないように気を付けたいです。

松崎小6年　上村　美優梶（みゆか）さん

科学者たちを乗せて、世界中の海を航海しているタラ号に乗船できてとてもうれしかったです。

私が一番驚いたことは、海のサンゴが大切な生き物だということです。私たちが呼吸をしている空気の半分は、サンゴの力でできているということを聞いて、びっくりしました。でも、そのサンゴたちの生活を壊しているものがあることを知り、それは大変だと思いました。なんと、それはプラスチックだったのです。私たちの生活に便利な物でも、海中のプラスチックは海に住む生き物の敵です。海の生き物たちがプラスチックを食べ物と間違えて飲み込んでしまうと、死んでしまうかもしれません。また、汚染された魚を人間が食べても大変です。

私が住んでいる詫間にもきれいな海が広がっています。この海を守るために、砂浜に落ちているプラスチックを拾います。そして、一年生の弟にも教えたり、家族みんなに呼びかけたりして、海のクリーン作戦に参加しようと思います。

私たちにもできる！ 環境を守るための心がけ

- □ ペットボトルではなく、水筒やコップを使う
- □ 絶対にごみをポイ捨てしない
- □ 海岸や川に落ちているごみを拾う
- □ エコバッグを使い、レジ袋をもらわない

▶問い合わせ　タラ号：生涯学習課　☎73-3135
明後日バッグ：環境衛生課　☎73-3007